



小さなことから

富山県立高岡高等学校 2年 野尻 桃香

私は今まで外国に行ったことがありません。でも、ある機会を通して私は世界の様々な現状を知ることができました。

中学校1年生のとき、私は日本赤十字主催のリーダーシップトレーニング・センターという2泊3日の合宿に参加しました。この合宿では国際状況についての講義を受けたり、点字や手話の技術研修を受けたり国際人道法について深く学んだりしました。

合宿の1日目、赤十字についての講義を受けました。そこで私は、世界の国々の厳しい現状を知りました。中東やアフリカで続く武力紛争の犠牲者の9割が青少年や一般市民であるということ、かんばつや火山噴火などの自然災害が毎日いろいろな場所で起き、それによる難民が増え続けていること…。それらの場所で救援活動にあたる赤十字のスタッフたちが、汗を流して働いている姿の写真も見ることができました。

私は衝撃を受けました。私が想像していた世界の状況と、実際の現状は大きくかけ離れたものであったからです。小学校や中学校で世界の国々について学んだとき、紛争や自然災害が世界の国でおこっているということは学びました。しかし、もっとせまい範囲でおこっているものだと思っていたしこんなにもたくさんの人々が難民となっていることを知りませんでした。

合宿から帰ってきて、私は世界の国のために何か自分にできることはないかということを考えました。そこでインターネットで調べてみるとある広告が目にとまりました。そこにはアフリカのたくさんの子供たちが写っている写真の横に「ペットボトルキャップで子供たちに笑顔。」とかかれていました。くわしく調べてみると、ペットボトルキャップを集め、世界の子供たちにワクチンを送ろうというプロジェクトでした。私はこのプロジェクトにとっても興味をもちました。自分もこの企画に、参加したいと思いました。そこで、私が住んでいる場所から一番近い場所でペットボトルキャップを集めている所を調べ、少しずつキャップをためてある程度の量になるとそこへ持って行きました。キャップを集めて寄付するのはとても身近なボランティアで手軽にできますが、あまりたくさんの人に知られていないらしくワクチンにする量までキャップを集めるには時間がかかると、キャップを集めておられる方が言っていました。

2年生になって、私は学校で、赤十字の委員会の委員長になりました。そこで、私はペットボトルキャップのことを学校全体の人に知ってほしくある企画を実施しました。それは、クラス対抗でペットボトルキャップを集め上位のクラスを発表し賞状を渡すというものです。また、今まであまり知られていなかったペットボトルキャップのことについては各クラスのJRC委員に、このボランティアについてのことをくわしく伝えてもらったり給食の時間に放送で呼びかけたりしました。すると、私たち委員や先生が想像していたよりもはるかに多くのペットボトルキャップが集まりました。1人で大きな袋いっぱいを持って来てくれる人もいました。そして何より嬉しかったのは、たくさんの人が少しずつ自分でキャップを持参してくれたことです。その後キャップをJRC委員できれいに洗い、重さを量りました。そして、大きな袋にたくさんつまったキャップを収集所へ持って行きました。

キャップを収集所へ持って行って1ヶ月後、私たちJRC委員のもとに1通の手紙が送られてきました。そこには、「ありがとうございます。7人分の、ワクチンになりました。」と書かれていて、笑顔の子供たちの写真がそこにありました。私は、嬉しくなりました。あの時合宿に参加していて本当に良かった、たくさんの人がこの活動を知ってくれれば、もっと良いのではないか、と思いました。

今、私たちにできること。それは、何か大きなことではなくても良いと思います。外国へ行って実際の現状を見たりすることも、もちろん大切なことです。しかし今、日本で生活している私たちにできることは…？小さなことで良いと思います。ペットボトルキャップを少し集めたり、国際社会についてのことを理解したり、何かのボランティアに参加したり。身近なことで良いと思います。1人1人が少しずつ、身近なことに取り組めば、それはいつか大きな力となって世界を変える力の原動力になると、私は思います。